

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	きりしま総合発達支援センター つぼみ		
○保護者評価実施期間	R7年 11月 28日		～ R7年 12月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	R7年 11月 28日		～ R7年 12月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 12月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	遊びを展開しながら機能訓練や呼吸ケア等実施している。ブランコやトランポリン等で感覚へのアプローチや歩行器、電動車いす等を使用したり発達に合わせた支援と少し先の目標を意識した目的のある支援を提供している。療育中は家族へ様子を伝え保護者が家庭においても子どもの成長に関心を持ちながら関わられるように支援している。	他事業所や園等の様子について連携を密にし情報共有しながら支援の提案等を行い、地域を含めた環境づくりを充実させていく。
2	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	親子療育を基本としており療育を実施しながらその場で保護者に伝えるようにしている。家庭での体調なども配慮しながら療育中状態を評価できるようにしている。また、困ったことなども話しやすい雰囲気づくりを意識し、家庭で取り組めることなど提案するようにしている。	家族が自宅で取り組んだことや気付いたこと等と療育中の様子と合わせた視点から共有理解できるように今後も取り組んでいく。
3	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	専門性のある視点で評価し、チームで共有、支援方法や方向性について話し合い、多角的な視点でこどもの理解に努めている。	家庭や他事業所、園等の様子を保護者や関係者と情報共有しこどもの全体像を捉えられるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	令和7年度平日にペアレントプログラムの研修会を開催。その他、事業所、支援者、保護者向けに『自閉スペクトラム障害の子どもたちの為の包括的教育プログラム(SCERTS)』の研修会を日曜日に実施しているが取り組んでいる事の発信や情報をつないでいくことに不足感がある。	保護者がタイムリーにキャッチしやすいSNSを使った情報提供やHP掲載情報を一斉メールからお知らせする定期的な情報提供を組み合わせた発信が必要。療育と研修に注力しているため情報発信のバランスを検討する。
2	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	HPへの掲載を基本としているがHPに情報があることの周知が不足している。	広報と連携し一斉メールを利用し定期的な情報発信をしている。また、施設内で保護者の目にとまる場所にHPのQRコードを掲載するなど療育待ち時間中に閲覧できるような環境づくりも検討する。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	今年度家族支援、きょうだい児支援の企画を開催。対象者のみの案内となり、開催後の情報発信についてはできていなかった。今後は活動が広く周知されることが課題。	年間計画として対象者や時期を早めに検討し広く周知できるように定期的な情報発信と開催後の発信ができるようにしていく。